

中川先生講義への質問と回答

Q：生徒たちに厳しい未来を生きることを教えるのは分かるが、では、どんな夢を持って生きることができるか、ビジネスの観点から教えて欲しい。

A：これはとても難しい質問だと思います。厳しい未来を招来していることも最も大きな要因は、世界で誰も経験をしたことのないような少子高齢社会を迎えるということです。このような社会への展望を描けていないということが、視界を不透明にしている最も大きな要因です。さらに言えば東日本大震災のような近年先進国が経験したことがないようなショックも視界を不透明にしています。

あまり適切な例示ではないかもしれませんが、トインビーの、災害によって滅びた文明はない、しかし災害に対する対応力をなくして滅びた文明はあまたある、という言葉聞いたことがあります。何らかの挑戦を乗り越えることで文明は新しく成長するという状況は今の日本にもあてはまるように思います。かつて、石油ショック時にエネルギーの輸入依存度の高い日本経済はもうだめ、という風潮が広がりましたが省エネ技術の進歩とその採用で日本経済は新たなステージに入りました。

少子高齢社会はそれよりも厳しい挑戦だと思います。しかし、それに対する答えはまだ明らかではなく、今の高校生と我々大人がその答えを見出していかなざるを得ない状況にあります。待っているのは「厳しい状況」だが、我々大人と「みなさん高校生」が死に物狂いになって解決できない問題ではない、そのための信頼できるパートナーシップのためにも問題の解決や負担をできるだけ先送りにはしない、というメッセージが我々が与えることのできるものではないかと思います。

Q：厳しい財政状況ですが、河村たかし氏のような減税政策をどう思いますか？

A：提案されている減税政策を詳細にみたことがありませんので、きちんとしたお答えにはならないと思います。ただ、減税案が将来の名古屋市の少子高齢化を見据えたものであれば、公共部門が資源をかき集めるよりも一人ひとりの市民に還元した方が好ましい判断はありえるかもしれません。しかし、名古屋市もこれから猛烈な高齢化を迎えます。そのための備えは、公共部門が大きな役割を果たさなければならない、それも今から準備をしておかなければならないことはたくさんあると思います。そう考えた場合に、大丈夫でしょうか、というのが率直な感想です。

Q：中川先生へ、成長都市と衰退都市の基準は明確に区別されているのでしょうか？それはどんなデータから決定づけられているものなのでしょうか？

「夏の経済教室」質問項目と回答担当者

A：衰退都市、成長都市の定義はそれほど明確なものはありません。ただ、通常は人口の長期的な動きで判断されることが多いと思います。むしろ人口減少時代には人口減少が一般的になると思います。その時、付加価値を生み出しやすい、あるいは様々なサービスを提供しやすい環境を備えるためには、一定の集約化が不可欠であるように思います。

Q：少子高齢化時代の財政再建はどのようになされると考えるべきなのでしょう。それを高校生に示すことができるモデル案のようなものはありませんか？（同趣旨複数あり）

A：予想できる状態があまり余裕がないことがわかっているのですから、問題や負担を先送りにしないということが最も重要だと思います。国債で財源を調達して今の高齢世代への年金の財源にしているような状態は、将来の現役世代の税負担で今の高齢者の消費を支えているような面があります。今できることは今の世代が負担をしてやりとげる、例えば積立方式の年金方式への転換なども今やれることかもしれません。

Q：国の借金を家計に例えた部分ですが、借金は国民から借りているようなもので、いわば家庭内で夫が妻に借りているようなものと思います。やはり家計に例えて教える必要はあるのでしょうか？

A：内部の資金のやりとりだから深刻な負の影響をもたらさないという説明に使われることが多いと思います。しかし、現在の年金財源を国債で調達して、それを将来増税によって償還するというのは、将来世代の増税（による消費減）によって、現在の高齢者の消費を支えている側面があります。賦課方式ですから将来の高齢者世代（現在の現役世代）の年金の負担もしなければならない将来世代は、このような「内部移転」に納得できない可能性は大きいのではないのでしょうか。内国債が、国債は内部の資金移転だというのはそのとおりですが、納得できない資金移転も相当あると思います。また、税という強制的に召し上げられる資金移転は、税率が高ければ高いほど経済に与えるダメージが大きいという性質があります。これは講義でも話しました。災害時の国債発行は税率の極端な上昇を避けるという意味がありますが、高齢化が深刻になる将来への年金財源の先送りは、かえって行われる増税のショックを高めてしまう可能性があるように思えます。